



Closeup! 治療院 もぐさんぽ



第 1 回

たがわ けんいち

田川 健一 先生

中和医療専門学校 1993 年卒

田川鍼灸治療院院長 1994 年～

愛知県刈谷市

産婦人科医院から紹介される妊婦さんの逆子治療に取り組んでいる田川健一先生。初めてお灸を見る妊婦さんに、長生灸を使った正しいセルフケアをおぼえてもらうこと、毎日実践してもらうことに力を入れた治療を行っておられます。今の治療スタイルを確立された経緯や、お灸への思いについて、お話をお聞きしました。

妊婦さんから産婦人科医院からも喜ばれる鍼灸治療

—田川先生は地域の産婦人科医院と提携して妊婦さんのケアを主に行っておられるそうですね。

現在、2軒の産婦人科医院に週3回往診しています。どちらの産科の先生も優しく、仕事に対して真摯に取り組まれ、東洋医学に理解のある尊敬できる方です。産婦人科医院への往診では、検診で医師に鍼灸治療を受けることが望ましいと判断された患者さんを診ています。逆子や、お腹の張り、切迫早産、便秘、腰痛、殿部痛、股関節痛、恥骨痛、足のつりなどの症状へ治療をおこなっています。妊婦さんは使える薬が限られているので、鍼灸治療で効果があると患者さんからも産婦人科医院からも喜ばれます。

—逆子治療や妊婦さんのケアに取り組むようになった経緯をお聞かせください。

28年前に初めて知人と妻の逆子治療をおこない、どちらも治すことができました。2人とも担当していただいた先生が同じ方で、産婦人科医院の副院長でした。

東洋医学に関心があるということで、どのようにお灸をしたのか見せてほしいと病院に呼ばれ、医療スタッフの前で冷や汗をかきながら妊婦さんに治療をおこなったことを覚えています。その後、その先生と鍼灸師の勉強会、医師の勉強会に誘い合うようになり、新たに産婦人科医院を開業するので一緒にやりませんかと声をかけていただきました。当時は産科の知識はなく、今のようにインターネットも普及していなかったため、手探りで逆子治療をスタートしました。院長先生から治療は好きなようにやってよいと任せてもらい、逆子の妊婦さんをたくさん紹介していただきました。妊婦さんは逆子が治らないと帝王切開ですし、当時は絶対に治さないといけないという大きなプレッシャーを感じていました。

数多くの妊婦さんの症例から至陰を重視する方針へ

—手探りでスタートした逆子治療が、どのようにして現在の治療の形になっていったのでしょうか。

産婦人科医院への往診に加えて、ありがたいことに産婦人科医院から患者さんを紹介していただけるので、